

薬 剤 部

部長：滝田 敬子

医薬品の安定供給が依然困難な状況にあり、院内採用医薬品の確保に苦慮した一年であった。

I 人事

9月に1名、2月に1名の採用があり、ようやく欠員を補充できた。2月より薬剤師17名・事務員1名の体制で業務にあたっている。

II 業務実績

1. 病棟関連業務

病棟薬剤業務実施加算は継続し算定することができた。薬剤管理指導料の算定件数は前年度に比べ増加している。

2. ジェネリック医薬品の使用促進

ジェネリック医薬品の使用割合は継続して90%以上を維持しており、後発医薬品使用体制加算1が算定できている。

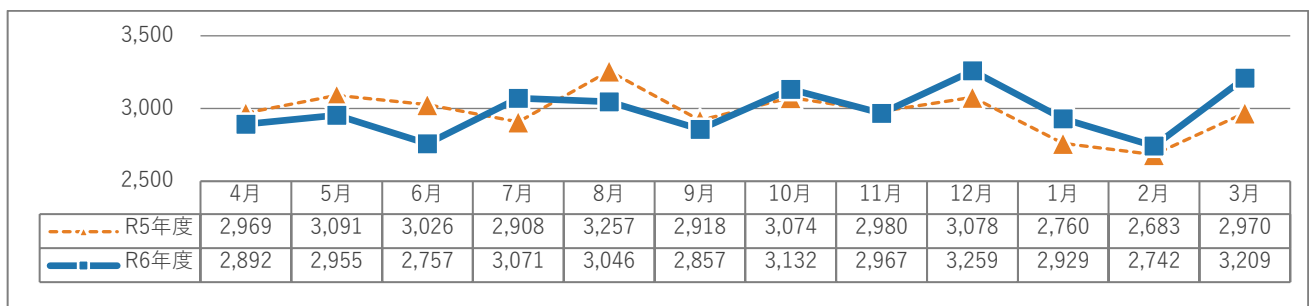


図1 外来院外処方箋枚数の推移

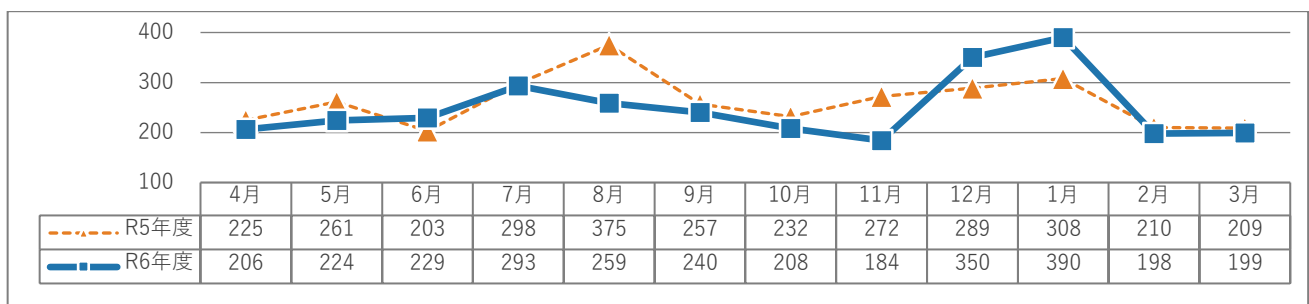


図2 外来院内処方箋枚数の推移

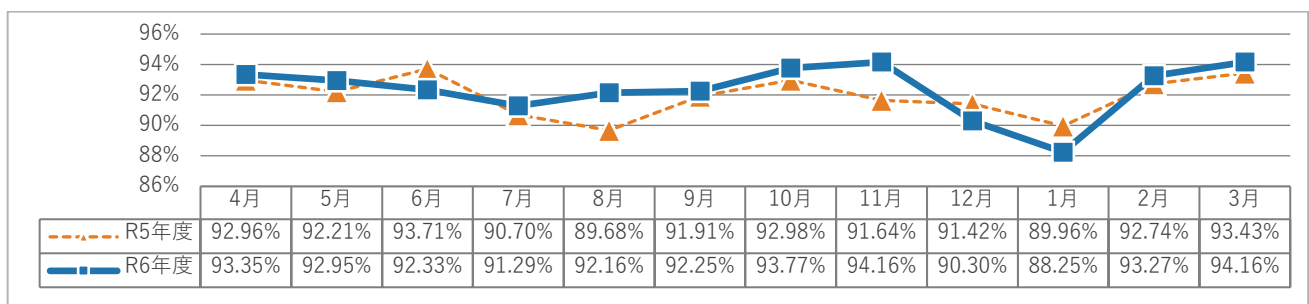


図3 院外処方箋発行率の推移

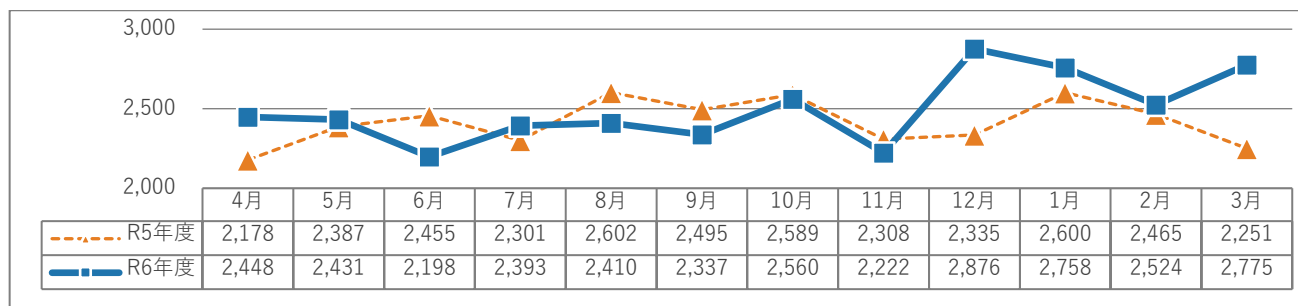


図4 入院処方箋枚数の推移

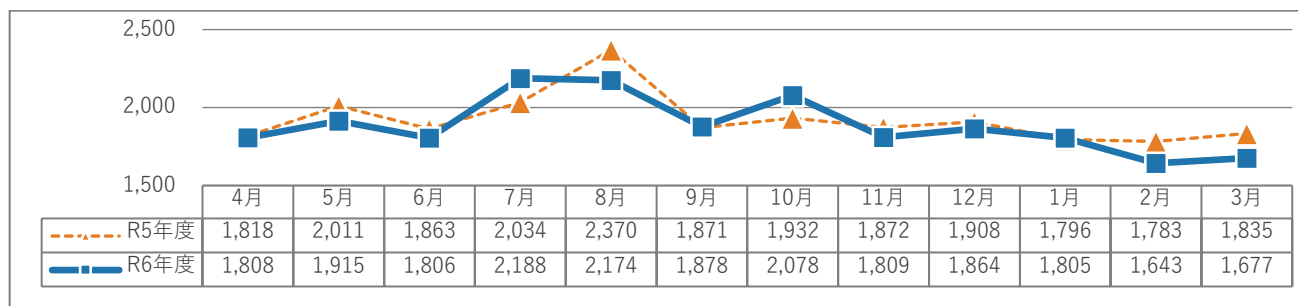


図5 外来注射箋枚数の推移

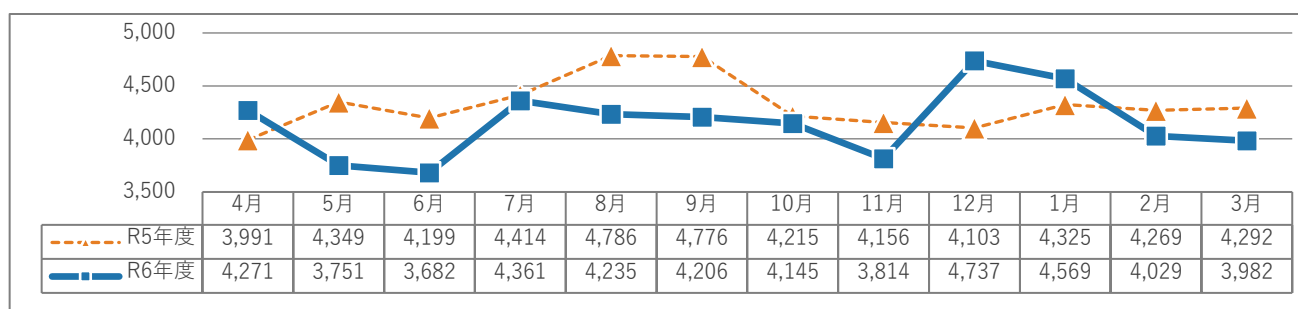


図6 入院注射箋枚数の推移

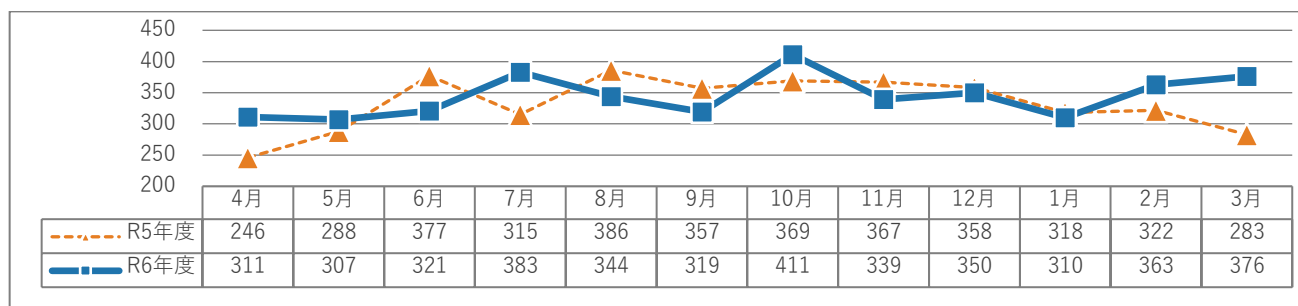


図7 薬剤管理指導料算定件数の推移

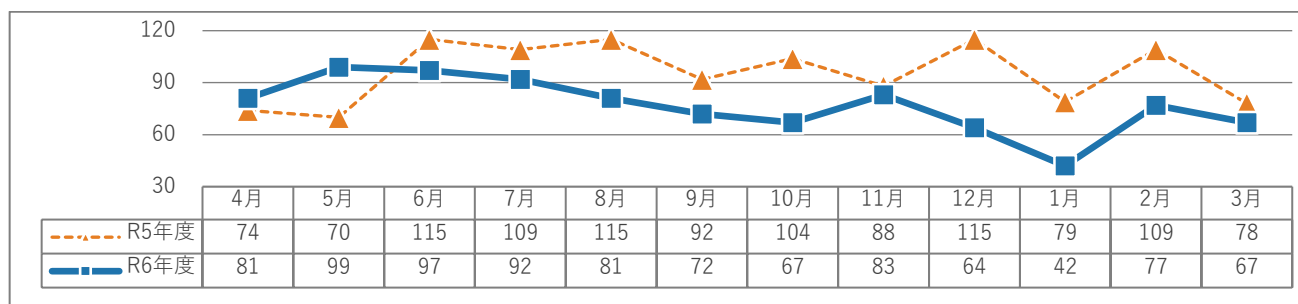


図8 退院時薬剤情報管理指導料算定件数の推移

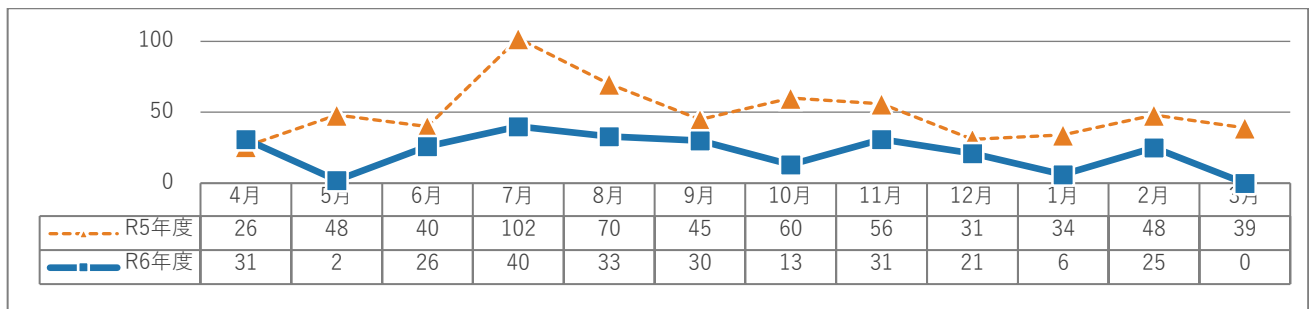


図9 無菌製剤処理料2算定件数の推移（TPN調製）

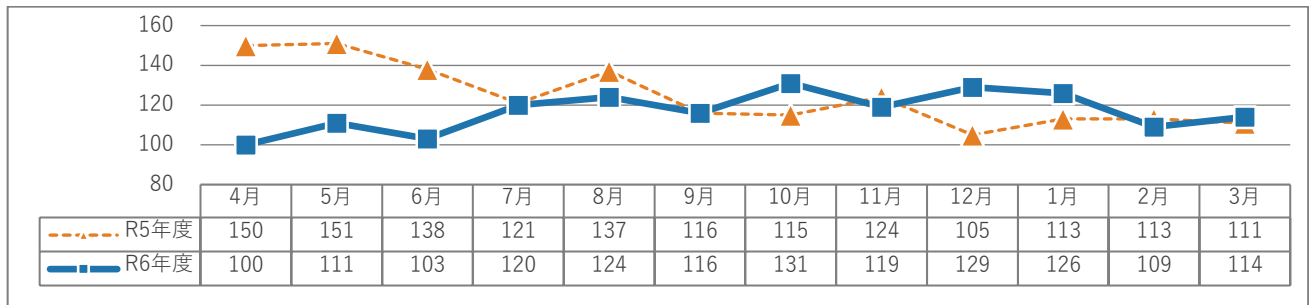


図10 無菌製剤処理料1算定件数の推移（外来抗がん剤調製）

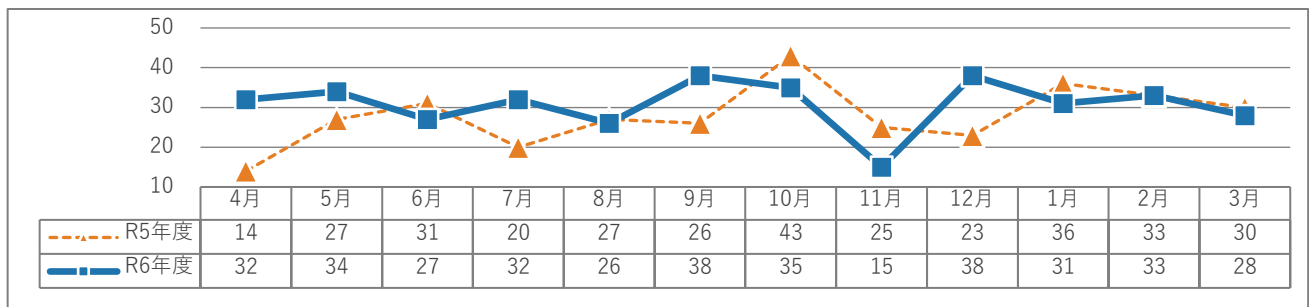


図11 無菌製剤処理料1算定件数の推移（入院抗がん剤調製）

中 央 検 査 部

技師長：小林 香織

I 人事

令和6年度は、前年より1名減の正職員14名でしたが2月末で1名退職し13名となりました。会計年度任用職員の臨床検査技師は3名でした。事務員1名が6月に退職し、新たな事務員を1名8月に採用しました。

II 装置導入等

当検査部では細菌検査を除く検体検査をFMS (Facility Management System) 方式で運営しています。FMS方式とは検査機器や試薬などを検査センターが提供し、院内で病院職員が検査を行う共同運営方式です。令和6年3月にFMS契約の更新をむかえ、入札により既存の検査センターとの更新となりました。13年を超える老朽化した検査機器を大幅に入れ替え、一新しました。

- 生化学・免疫統合分析装置：コバスpro c503e801 (ロシュ)
- 自動生化学分析装置：コバスpro c503 (ロシュ)
- 全自動化学発光酵素免疫測定装置：AIA-CL300 (東ソー)
- 血液検査システム：XR-3000 (シスメックス)
- 血液凝固自動分析装置：CP3000 (積水メディカル)
- 全自動糖分析装置：GA08III α (A&T)
- グリコヘモグロビン分析計：HLC-723GR01 (東ソー)
- 乾式臨床化学分析装置：NX10N (富士フイルム和光)
- 純水製造装置：TRO-150RC、TRO-60RXC、RO-40SC (東洋紡)
- 全自動輸血検査装置：オーソビジョンSwift (オーソ)
- 便潜血測定装置：OC-PLEDIA (栄研化学)
- 検体前処理分注装置：LabFLEX2600G
- 自動採血管準備システム：BC ROBO-8001 (テクノメディカ)

また、機器の老朽化等に伴い、以下が更新されました。

- 心臓運動負荷モニタリングシステム：MLX-1000 システム (フクダ電子)
- 心肺運動負荷試験 (CPX) 呼吸代謝システム：AE-310S (ミナト医科学)

- 卓上遠心機：S500T (久保田)
- 輸血システム：BTD (オーソ)

III 業務実績

令和6年度当初より検体検査に求める機能や院内実施検査項目を臨床検査適正化対策委員会で医師、看護師、事務職等多職種を交えて話し合いを始めました。最も求められたのが、結果報告時間 (TAT: Turn around Time) の短縮でした。従来の免疫検査機器は検体架設からの測定時間が40分と長く、検体処理能力も低いもので、検査報告までに時間を要していました。そこで測定時間が20分で検査処理能力も倍以上の仕様の機器に更新しTATの短縮を図りました。また、従来は分注機から生化学検査機器、免疫検査機器へ技師が検体を運んで架設していましたが、分注機から生化学・免疫検査複合機を連結し、検体が自動で搬送される仕組みを構築して自動化・効率化を図りました。

最も時間を要していたのが採血後に血液が凝固するまでの時間で、その短縮に向けて令和7年3月に外来の院内検査分に高速凝固採血管を導入し、従来20分程度要していた凝固時間が5分に短縮されました。

自動血球分析機器は塗抹標本作製機能を有する機器に更新し、染色を自動化・効率化して、技師が顕微鏡での標本の鏡検に専念できるようになりTATも短縮されました。

令和6年6月には検体検査の基準値をJCCLS共用基準範囲に変更しました。全国の医療機関との統一をはかり、他施設と検査結果共有の際にも有用です。

令和6年9月より、心臓サポートチーム介入患者を対象とし、肺うっ血の程度を図る目的に肺エコーB-line検査を本格的に稼働開始しました。退院前の残存うっ血の評価を行っています。

IV 学術業績

<院外発表>

「鳥取県における第三世代セファロsporin系抗菌薬耐性菌の検出状況」

今嶋紗也、小林香織、村上裕絵、森下翔太

第57回日臨技中四国支部医学検査学会 (2024.11)

「当院における心配運動負荷試験 (CPX) の運用につ

いて」

西川裕子、加藤富子、北邑美穂、小林香織

第57回日臨技中四国支部医学検査学会（2024.11）

<雑誌投稿>

「地域に必要とされる病院を支える検査室であるために」

小林 香織

全国自治体病院協議会雑誌 2024年7月号

<院内講師>

「採血管について」

森 一葉

モーニングレクチャー（2024.9.12）

V 認定有資格者

令和6年度は柿ヶ原大貴技師が認定輸血検査技師を取得、小林きよこ技師が二級臨床検査士（血液学）を取得しました。

中央検査部臨床検査技師の取得資格は以下のとおりです。

- ・細胞検査士（日本）／4名／田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子、佐々木伽耶
- ・細胞検査士（国際）／3名／田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子
- ・認定臨床微生物検査技師／1名／小林香織
- ・感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）／1名／小林香織
- ・超音波検査士（消化器）／5名／村上裕絵、加藤富

子、西川裕子、後藤陽子、小林香織

- ・超音波検査士（循環器）／1名／西川裕子
- ・超音波検査士（体表臓器）／4名／加藤富子、村上裕絵、後藤陽子、西川裕子
- ・超音波検査士（健診）／3名／小林きよこ、小林香織、西川裕子
- ・二級臨床検査士（病理）／3名／小林きよこ、田中美穂、谷本真梨子
- ・二級臨床検査士（微生物）／1名／今嶋紗也
- ・二級臨床検査士（血液）／1名／小林きよこ
- ・緊急臨床検査士／3名／柿ヶ原大貴、森一葉、徳安友季
- ・認定病理検査技師／1名／小林きよこ
- ・JHRS認定心電図専門士／1名／垣内真未
- ・乳がん検診超音波検査実施技師／1名／加藤富子
- ・心不全療養指導士／1名／西川裕子
- ・鳥取県糖尿病療養指導士／2名／柿ヶ原大貴、村上裕絵
- ・有機溶剤作業主任者／4名／田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子、佐々木伽耶
- ・特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者／5名／小林香織、田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子、佐々木伽耶
- ・化学物質管理者講習修了／1名／田中美穂
- ・保護具着用管理責任者教育終了／1名／田中美穂

VI 検査件数

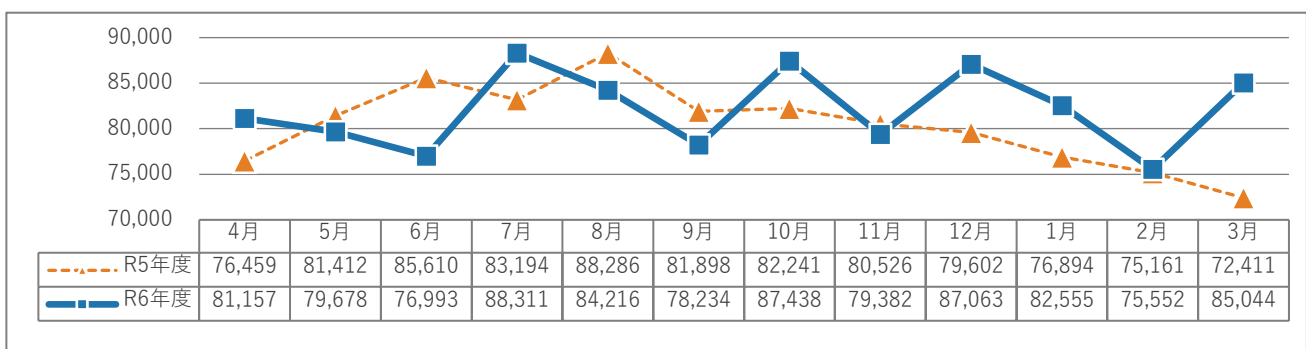


図1 検体検査 検査件数

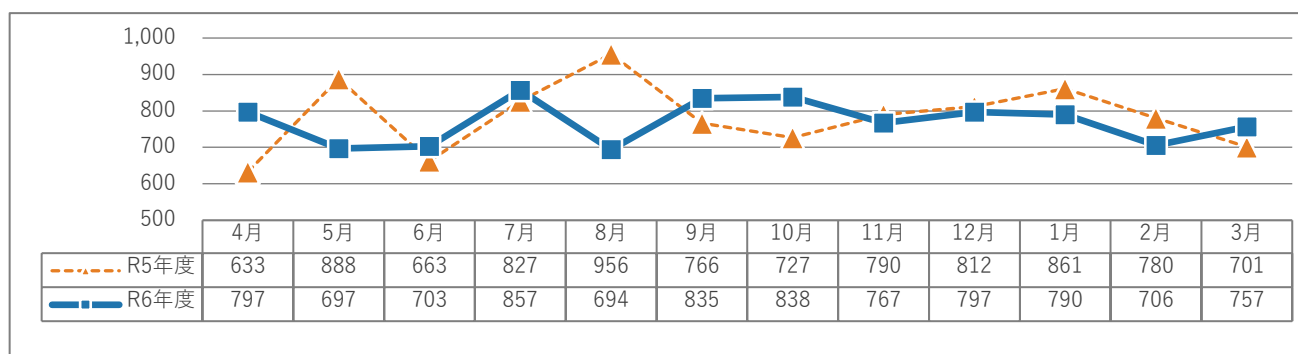


図2 細菌検査 検査件数

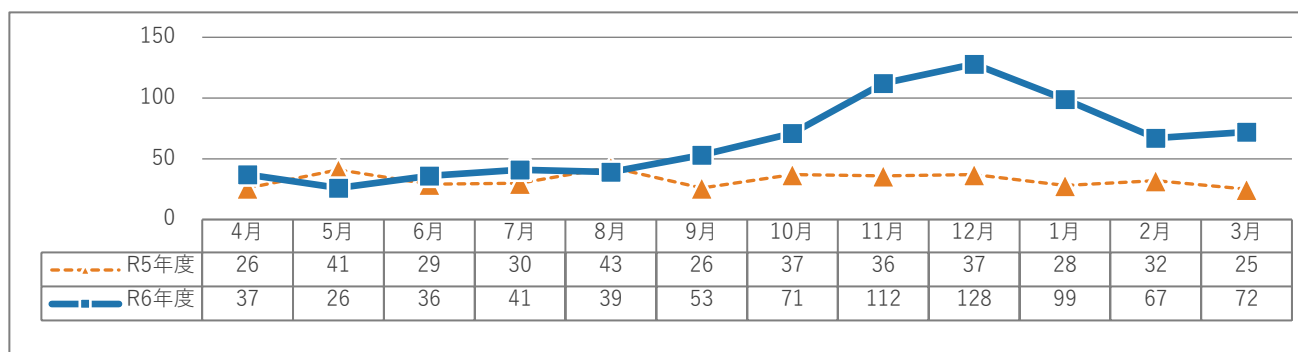


図3 遺伝子検査 検査件数

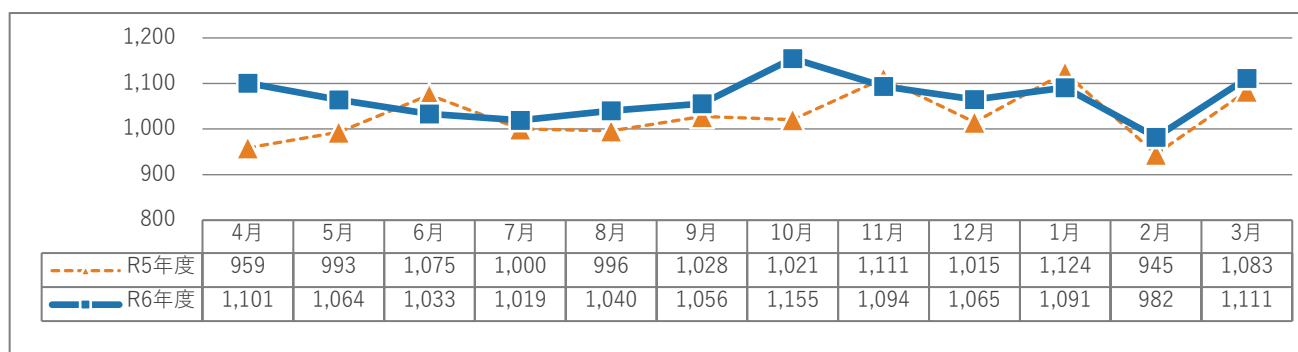


図4 生理検査 検査件数 (健診除く)

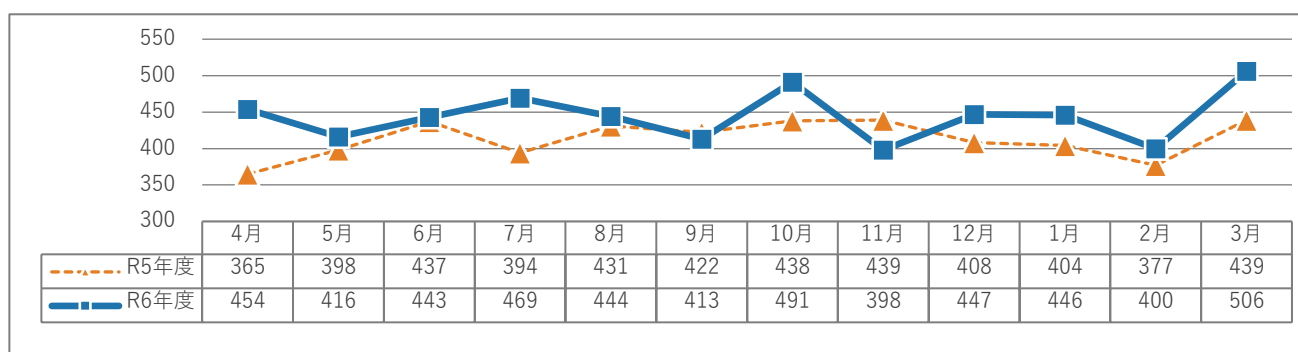


図5 病理検査 検査件数 (組織・細胞診)

中 央 放 射 線 部

技師長：横地 延彦

I 装置導入等

- ・MRI装置を前年度末に導入し、運用方法を確立した。
- ・放射線治療装置使用不可により放射線治療業務を終了した。管理区域の変更は来年度汎用型血管撮影装置と一緒に行う。
- ・結石破碎装置更新に伴い朝の始動時のサポートの検討をした。

II 検査・治療関連

- ・MRI装置更新に検査内容の見直しを行った。来年度予約時間変更に向け時間の見直しを行った
- ・汎用型血管撮影装置廃棄に伴い検査運用の変更を行った。

- ・整形の手術支援ロボット導入に伴う撮影方法の検討を行った。
- ・患者誤認防止対策強化のためCT検査においても検査開始時にバーコードで確認するように運用を変更した。
- ・放射線治療終了とCT担当者が今年度一杯での退職に伴い、部内の運用配置の変更を行った。

III 検査件数

検査件数は前年度とほぼ同じであった。(検査件数を下記に記す)

今後も検査手順の見直し装置の更新等で待ち時間の短縮を図って行きたい。

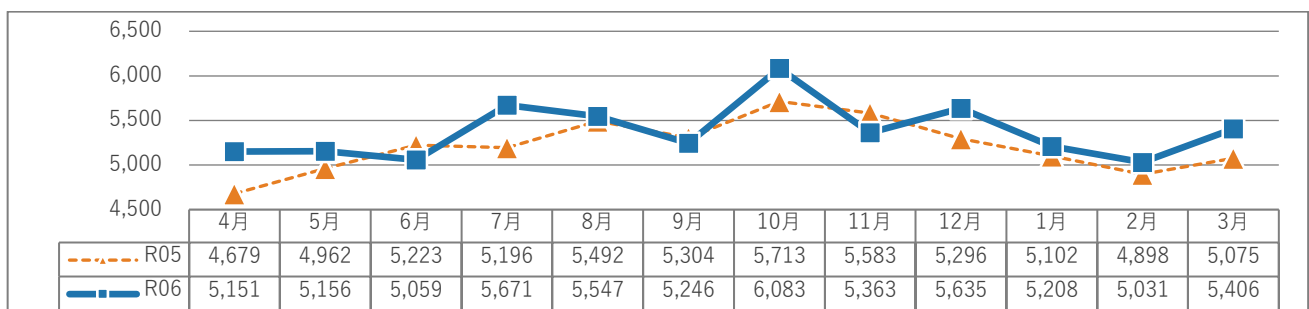


図1 総合計

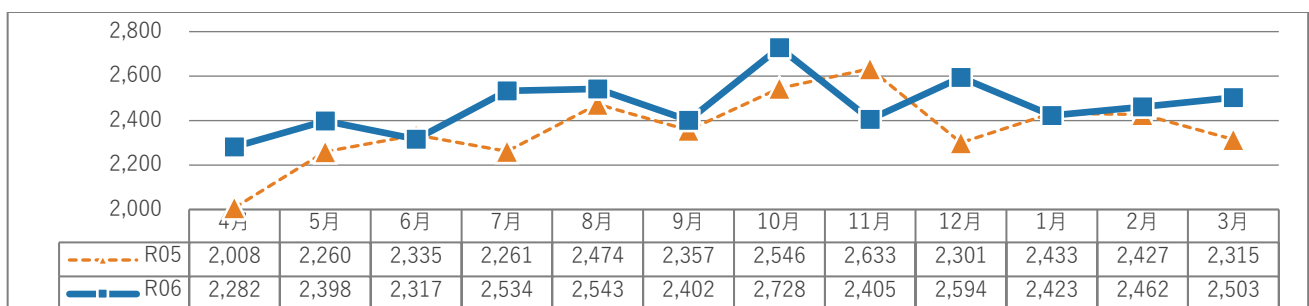


図2 一般撮影

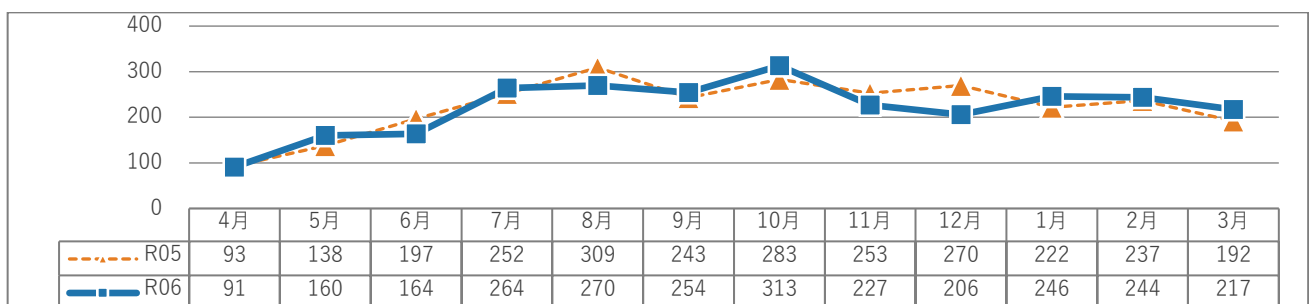


図3 乳房撮影

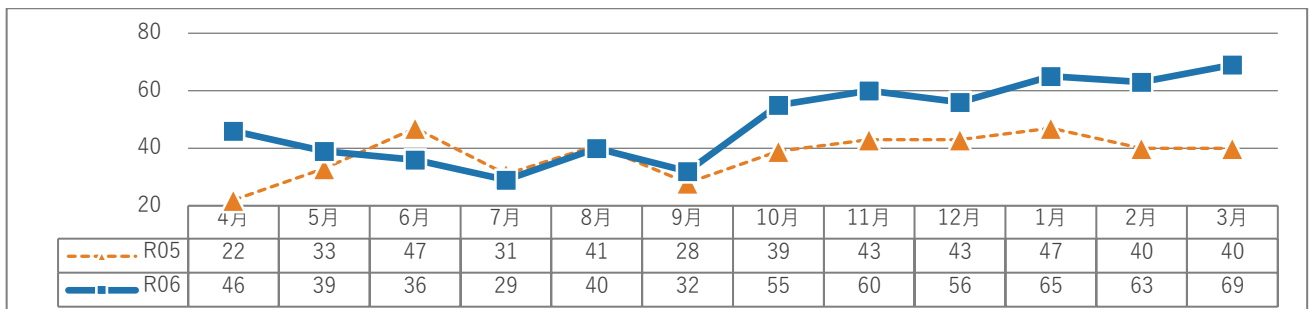


図4 歯科撮影

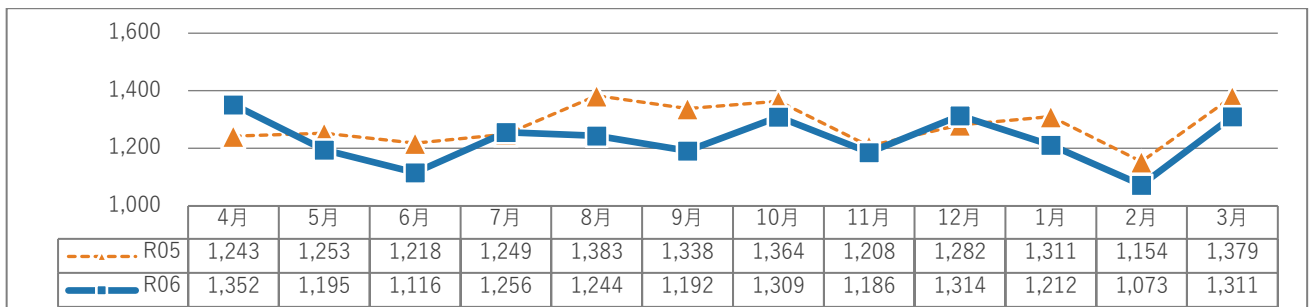


図5 CT検査

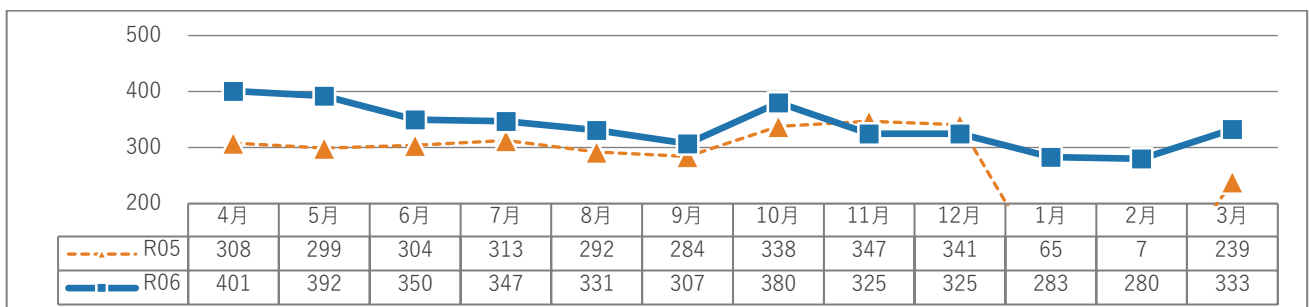


図6 MRI検査

※令和5年度の1～3月はMRI更新工事のため件数減少

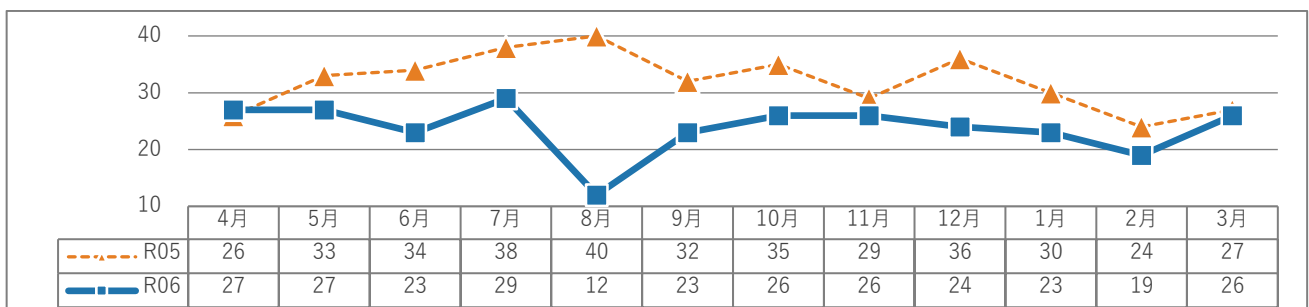


図7 PET/CT

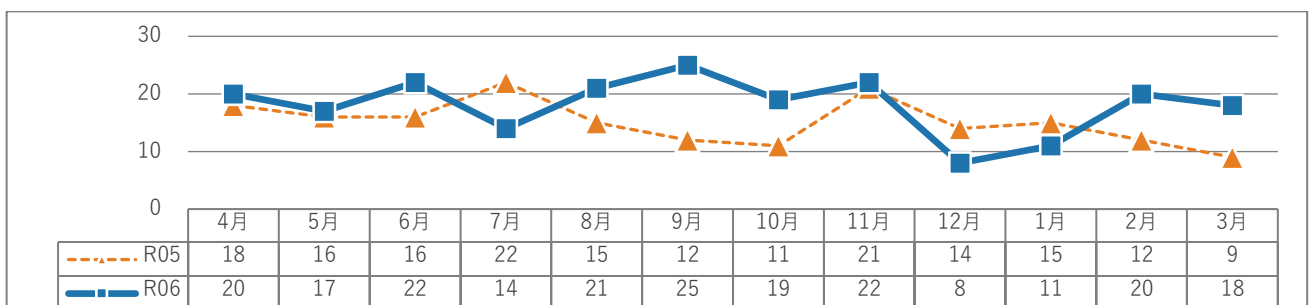


図8 RI検査

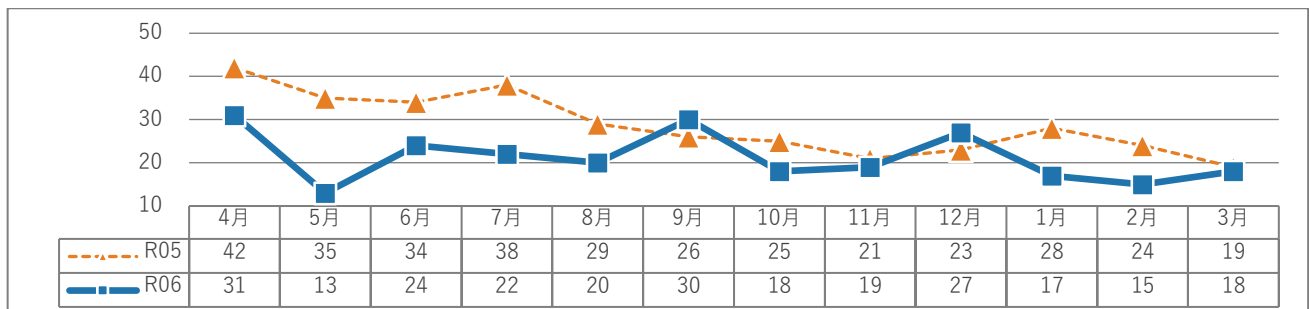


図9 血管撮影

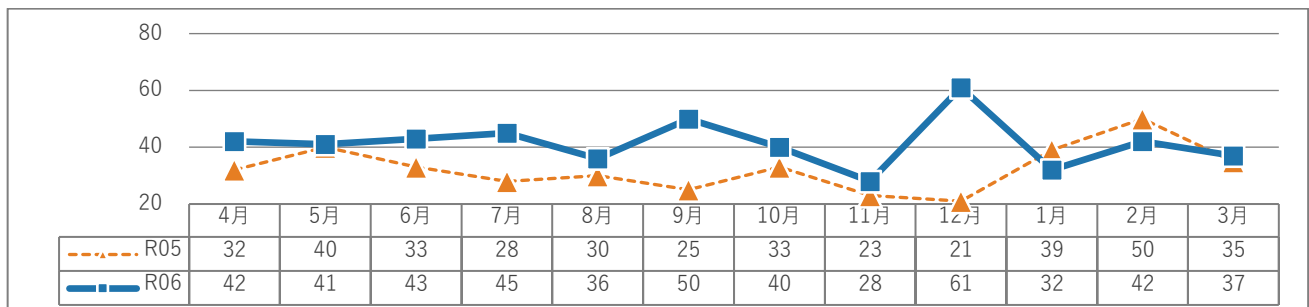


図10 造影透視（胃透視除く）

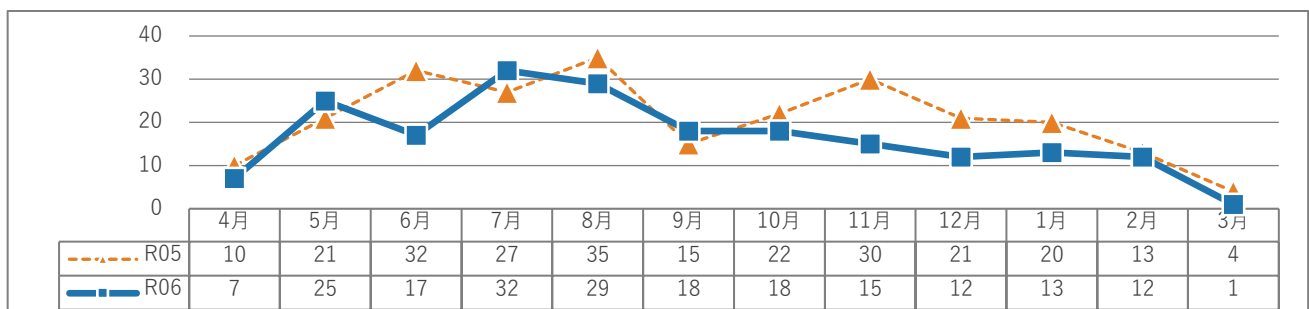


図11 胃透視検査

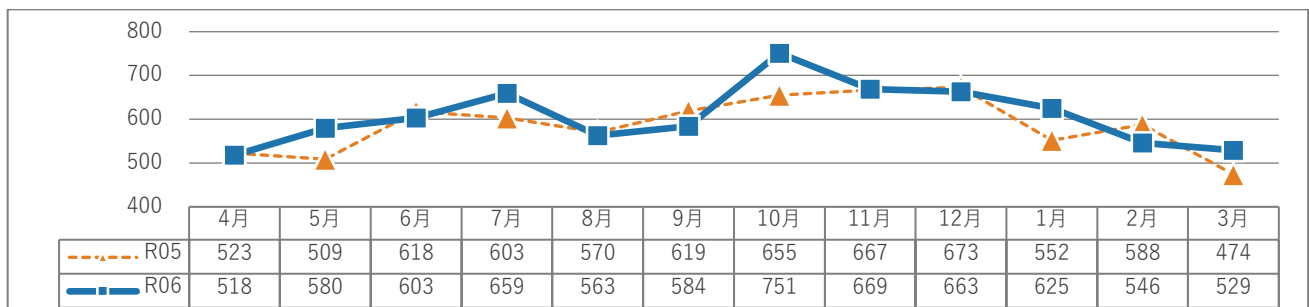


図12 内視鏡（内視鏡室＋透視室）

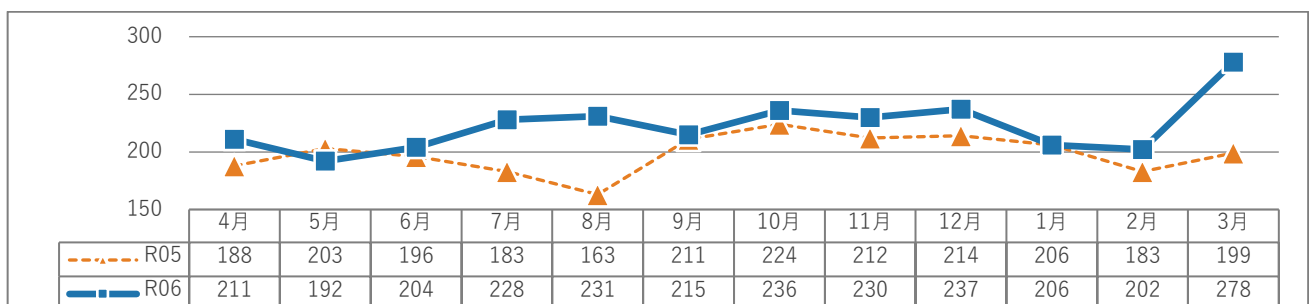


図13 画像出力（CD＋フィルム）

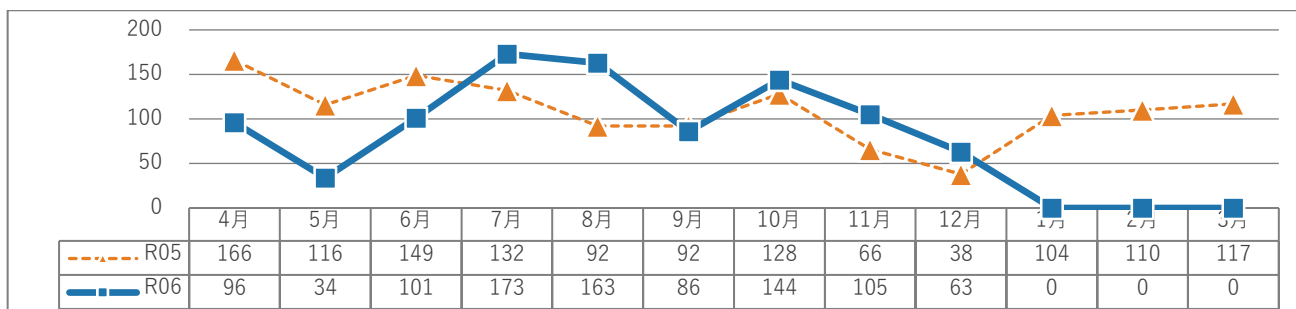


図14 放射線治療（計画含む）

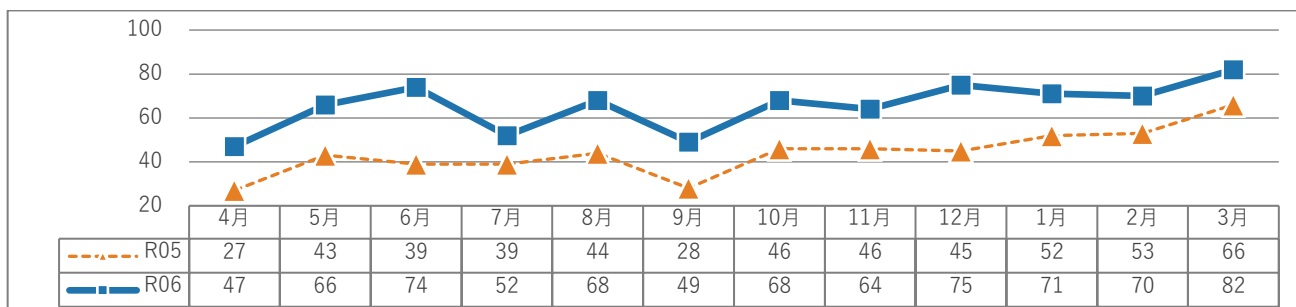


図15 骨塩定量

リハビリテーション部

技師長：井嶋 昭二

I 人事

令和6年度は新規採用や退職者はなく、理学療法士10名（うち1名は、地域包括ケア病棟専従療法士）、作業療法士5名、言語聴覚士3名（うち1名は年度途中より産休、その後育休中）の18名の体制でした。

II 業務実績

1. 診療実績

令和6年度の理学療法・作業療法・言語聴覚療法各部門の実績は図1～3のとおりです。令和5年度は、理学療法、作業療法とも運動器リハビリテーションの合計件数が最多となりましたが、令和6年度は作業療法では廃用症候群リハビリテーションが最多となりました。言語聴覚療法は例年どおり廃用症候群リハビリテーションが最多となりました。リハビリテーション部全体の合計件数は、前年比2%増となりました。

また、新患処方数については、言語聴覚療法では前年比と同程度でしたが、理学療法は8%、作業療法では28%増となりました。

2. 実習生受入

〔理学療法部門〕

- ・ 令和6年4月15日～6月7日
鳥取市医療看護専門学校 臨床実習 1名
- ・ 令和6年6月17日～8月9日
YMCA米子医療福祉専門学校 臨床実習 1名
- ・ 令和6年7月8日～8月30日
鳥取市医療看護専門学校 臨床実習 1名
- ・ 令和7年2月25日～3月7日
YMCA米子医療福祉専門学校 臨床実習 2名

〔作業療法部門〕

- ・ 令和6年7月8日～9月7日
鳥取市医療看護専門学校 臨床実習 1名
- ・ 令和7年1月14日～2月22日
鳥取市医療看護専門学校 評価実習 1名

3. 講義・依頼事業

ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響により院外開催の講義が減少していましたが、令和6年度はコロナ禍前とほぼ同様に戻りました。

<院外>

- ・ 鳥取看護高等専修学校 講義
治療法概説「リハビリテーション」
令和7年1月15日 講師・阿合佑平（理学療法士）
令和7年1月22日 講師・下村教光（理学療法士）
令和7年1月29日 講師・山田莉穂（理学療法士）
令和7年2月5日 講師・山本台次（作業療法士）
令和7年2月12日 講師・森岡早貴（言語聴覚士）
 - ・ 骨粗鬆症デーin鳥取 2024 骨粗鬆症講演会
「折れない體（からだ）の作り方」
令和6年10月6日 講師・阿合佑平（理学療法士）
会場：鳥取市役所麒麟スクエア
 - ・ 鳥取市立病院とことん学ぶ研修会
「心不全とリハビリテーション」
令和6年10月12日 講師・岡田崇臣（理学療法士）
会場：とりぎん文化会館
 - ・ 鳥取市立病院出前講座
「介護予防と運動」
令和7年1月29日 講師・大河原隆二（理学療法士）
会場：障害者福祉センターさわやか会館
- <院内>
- ・ 骨粗鬆症リエゾンサービス委員会
「骨粗鬆症に対する知識の共有とFLSの意義について」
令和6年10月25日 講師・阿合佑平（理学療法士）
 - ・ モーニングレクチャー
「ADL評価法について」
令和6年11月14日 講師・奥田太樹（作業療法士）

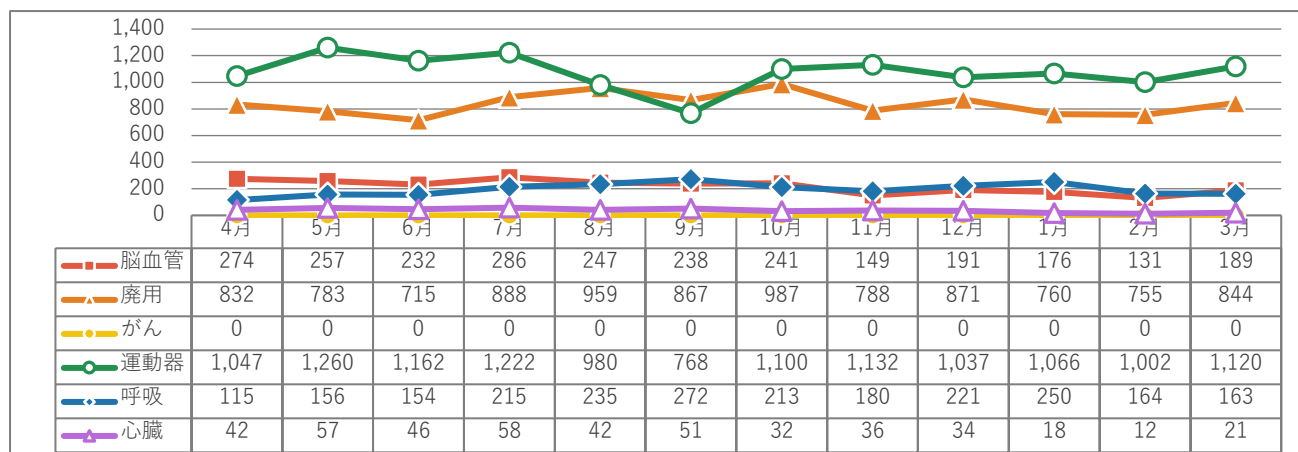


図1 理学療法件数

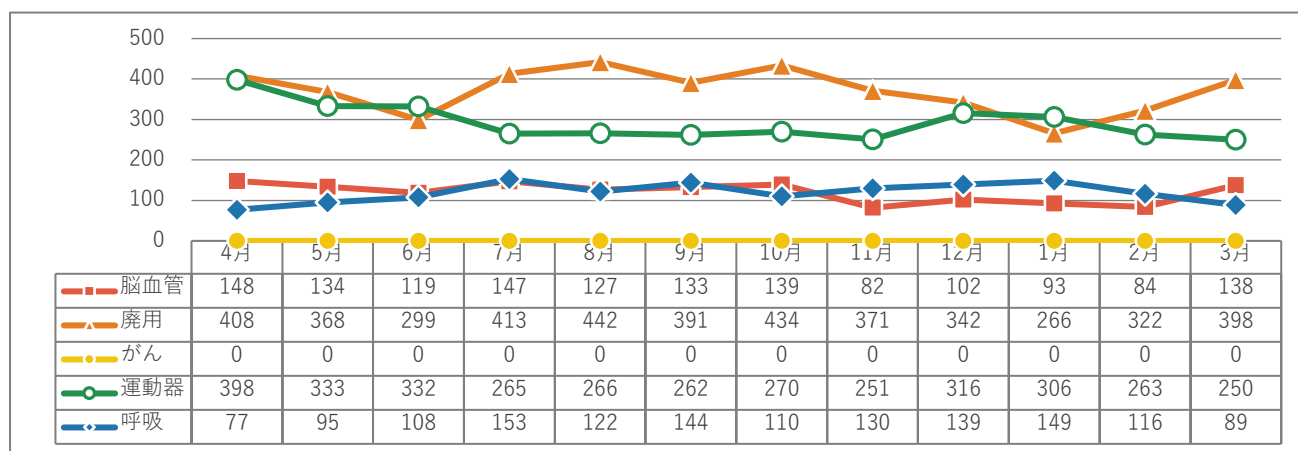


図2 作業療法件数

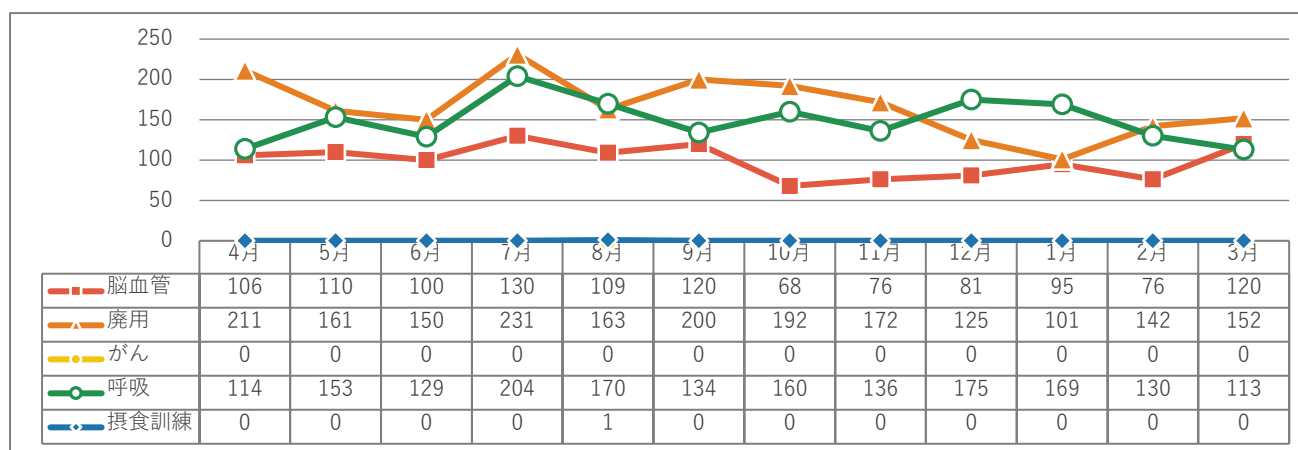


図3 言語聴覚療法件数

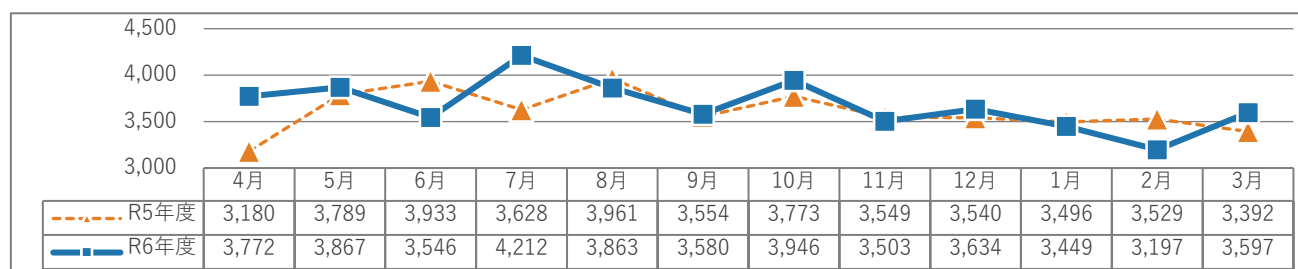


図4 リハビリテーション部 (PT・OT・ST合計) 診療件数

臨床工学部

技師長：藤原 弘昌

令和6年度は7名体制で業務にあたった。機器管理業務においては、医療機器中央管理システムを活用し、点検記録簿の電子化を推進したほか、機器の更新や配置の見直しなどを通じて、医療機器の安全かつ有効な運用を目指して取り組んだ。また、臨床業務では、整形外科領域における手術支援ロボットの運用開始に対応した。

I 新たな取り組み

1. 医療機器点検記録簿の電子化

令和5年に更新した医療機器中央管理システムを用いて、医療機器の定期点検および日常点検に関する記録簿の電子化運用を開始し、点検管理の効率化に努めた。

2. 血液ガス分析装置更新への対応

救急外来および2階東病棟の血液ガス分析装置の更新にあたり、製造メーカーと連携して操作および管理方法に関する研修会を開催した。また、運用開始後は各種トラブルへの対応を行った。

3. 除細動器更新への対応

救急外来に設置する除細動器の更新にあたり、看護局および医局に向けた研修会を開催した。また、医療安全対策室主催にて全職員を対象とした医療機器研修会を行った。

4. 一般病棟用生体情報モニタの配置変更

電波法改正により使用停止となる旧規格の無線送信機能を搭載した生体情報モニタについて、新規格対応の機器の配置変更を行うため、各部署の使用状況を確認し、配置希望数の聞き取りを実施した。その結果をもとに、部署ごとの適正数を検討し、配置変更を行った。

5. 整形外科領域の手術支援ロボットへの対応

人工関節置換手術支援ロボット「ROSA」および「Mako」の新規導入にあたり、運用方法の協議や事前シミュレーションを実施し、術前セットアップなどを担当した。（令和7年3月実施の初症例へ対応）

II その他

1. 学会発表

第14回中四国臨床工学会

2024/9/21～22 アイテムえひめ愛媛国際貿易セ

ンター

○「眼科手術業務におけるCE介入の評価」

鳥取市立病院 臨床工学部 山岡 和生

○「当院のRFIDを活用したME機器中央管理システムの導入に向けた取り組み」

鳥取市立病院 臨床工学部 玉川 沙耶

III 業務実績

令和6年度、従事した臨床業務および医療機器安全管理業務の実績は以下のとおり。

表1 従事した主な臨床業務の実績

内容	件数	備考
血液透析療法（HD）	30	
腹水再静注療法（CART）	4	
持続血液ろ過透析（CHDF）	3	
ペースメーカー植込み手術関連業務	12	
ペースメーカー関連業務	143	外来チェック：94件
ラジオ波焼灼術（RFA）	7	
血管撮影室関連業務（循環器内科）	134	PCI：41件、EPS：3件
血管撮影室関連業務（放射線科／脳外科）	2	
手術室関連業務	1,819	眼科手術関連業務：1,102件 ロボット手術関連業務：93件 ナビゲーション関連業務：59件 カメラ保持業務：27件
内視鏡室関連業務	5,008	ESD：58件、ERCP：218件
その他	12	在宅用医療機器対応等

表2 医療機器安全管理業務の実績

内容		件数
点検修理対応		366
メーカー修理対応		51
日常点検業務	輸液ポンプ・シリンジポンプ	2,847
	生体情報モニタ等	1,279
	人工呼吸器・麻酔器	57
	血液透析関連装置	30
	深部静脈血栓予防ポンプ	187
	その他、CRP測定装置等	233
定期点検業務	輸液ポンプ・シリンジポンプ	346
	特定保守対象機器 （人工呼吸器、IABP、PCPS、除細動器、 保育器、血液浄化装置等）	72
	救急室ME機器	60
	その他、AED等	44
	電波管理対象機器	97
手術室点検業務	生体情報モニタ、麻酔器等	6,622
安全管理	医療機器研修会の開催 （30機種 ※うち新規導入8機種）	28
	医療機器安全情報等の収集 （公的機関、メーカー）	31

栄 養 管 理 部

部長：横山 康博
文責 管理栄養士長：山本 千幸

慢性的な調理員不足が解消され、これまで以上に細部までこだわる業務への移行を図った一年だった。食材高騰と物資制限は続き、献立展開に頭を悩ませながらより美味しく摂食を継続していただけるような食事提供に心を砕いた。臨床現場での管理栄養士の役割はより大きくなり、医療技術職間での協働を充実させた。

I 食事提供数（表1）

治療食割合を示す特食比率は年間平均31.0%。

II 特別メニューの提供

実施回数103回866食（×50円＝43,300円）ラーメン・天ぷらそばなど一般給食では提供し難いメニューで展開している。なかでも、えびを使ったメニュー（エビフライカレーやエビチリなど）と丼ものが人気。一般食以外の方にも楽しんでもらえるよう通常献立へ展開するお楽しみ献立を増やしているため、実施回数は意図的に減少させている。

III レシピ集作成

栄養指導の際に用いる媒体として、これまで当院が実施してきた料理講習会のメニューや治療食に採用している献立などをまとめたレシピ集を完成させ

た。今回は制限中でも満足感を感じられる献立をそろえたものとした。



IV 行事食

疾病予防啓発を兼ねた行事食を積極的に取り入れている。高血圧デー（5月）・ロコモ予防の日（6月）・栄養の日（8月）・骨粗鬆症デー（10月）・糖尿病週間（11月）を実施。糖尿病週間には当日献立のレシピを一緒に提供し、関心度アップを試みた。昨年好評だったしゃんしゃん祭りと花火大会開催に合わせた夏祭りメニュー（お好み焼き・焼きそば・ひまわり和菓子）を今年も提供した。

V 栄養指導件数／指導内容（入院）

年間966件（入院341・外来625）、加算率93%（図1）。継続フォローは年間延べ305件と件数をのぼし、退院後も支援を継続している。

表1 食数集計表

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食合計	11,595	11,046	9,409	10,284	11,876	11,185	10,751	9,603	11,704	13,204	12,238	13,859	136,754
特別食合計	5,288	4,535	5,122	4,582	5,115	4,845	4,749	4,131	5,168	5,742	5,939	6,177	61,393
濃厚流動食	81	192	73	256	531	330	381	237	158	269	116	239	2,863
病後児・託児所	274	300	285	311	294	310	362	349	317	325	306	325	3,758
その他	104	126	120	103	111	105	110	107	121	97	96	114	1,314
合 計	17,342	16,199	15,009	15,536	17,927	16,775	16,353	14,427	17,468	19,637	18,695	20,714	206,082

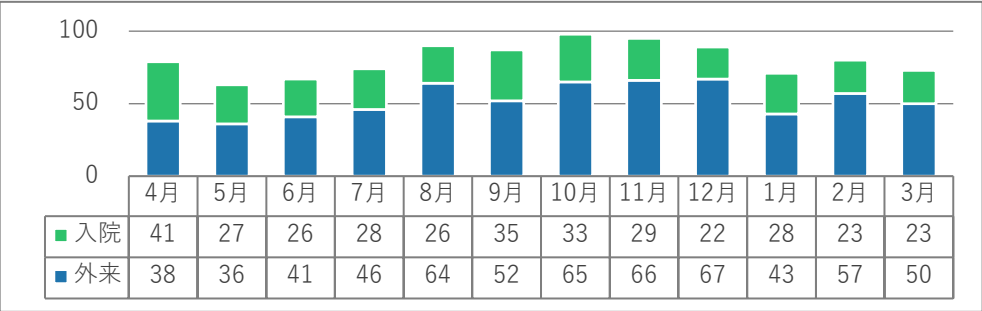


図1 栄養指導件数

